

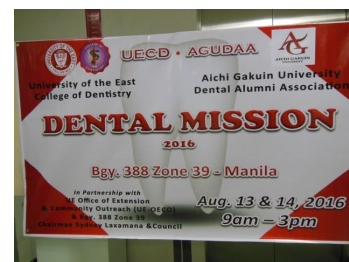
AGUDAA-V-フィリピン 2016 活動報告 (2016.8.12~8.16)

団長：亀山 正道

活動日： 8月13日、14日 (9:00~15:00)

活動場所: Quiapo Barangay → East of University <通称 UE 大学> (Quezon city)

参加者： 歯科医師 (日本 13 名、フィリピン数十名) 放射線技師 (日本 1 名) 医師 (比国 3 名) 歯科衛生士 (日本 6 名) 歯科衛生学科学生 (1 名) アサヒ (1 名) モリタ (1 名) その他比国大学関係者、OB 先生ら十数名、ライオン歯磨き K.K (寄付)



今年の活動は、フィリピン大統領選挙が行われた為、例年の 5 月連休でなく 8 月になりました。昨年来より綿密に計画を練ってきましたが、準備の段階でテンポラリーライセンス取得のための申請書に不備があるというので再提出の憂き目にあい、出発前まで慌ただしく準備に走り気を揉みました。

8 月 12 日 (金) 定刻より遅れての出発、フィリピンは終日雨でした。

渋滞の中、冠水する道路を走り活動場所に近いホテルに到着、3 日間の仮の宿となるホテルでは過冷房の豪華サービスは長袖が必要でした。熱帯スコールは、尋常な雨ではありません。到着早々に停電し、エレベーターの停止で閉じ込められた先生も居ました。夕食は近く中華料理屋、そこで 10 日から前泊の 7 名の加藤グループと合流し会食しました。そこで小学校のデンタル・フェスティバル衛生活動の内容を聞くことができました。そしてアトラクションとして、歯科衛生士学生さんが持参した携帯用の津軽三味線で演奏を披露され、素晴らしい前夜祭になりました。比国で日本の本格的な演奏を聴けるとはサプライズでもありました。13 日の活動場所が大雨の為、テント張りでは活動が難しいだろうということで、急遽、治療は UE 大学病院で行い患者は搬送して送迎することを夕食時に決定しました。

8 月 13 日 (土) 雨。6 時朝食、8 時半出発、UE 大学病院に向かいました。昨年移転した新しい病院内の学生用診療室を借りての診療でした。エンジン等は使用できず、持参した往診用機器を接続して準備をしました。9 時 30 分には、ぼつぼつ患者が来始めました。某先生は 30 名と言っていましたが、それほどの悪天候。予想に反して午前中には 80 名ほど抜歯・スケーリング・充填のコースで診療をスタート。途中、休憩昼食後は午後 2 時 30 分スタート、1 時間ほど診療。患者は合計 93 名と低迷でした。室内は冷房が効きすぎで上着を着ないと震えあがるほど、これはかつてない快適な(?)環境でした。落ち着いてじっくり診療ができることは日本での診療と変わりなく、例年のボランティア気分が削がれました。夕食はフィリピンサイドのメンバーと一緒に会食、バイキングスタイルのフィリピン料理でビールとともに英気を養い意見交換し、両国の若い人たち良いコミュニケーションの場となりました。

8 月 14 日 (日) 二日目も終日雨でした。8 時半出発、UE 大学へは日曜の為か渋滞なく到着。この日は周辺の Barangay に声をかけて集患すると聞いていました。患者さんのニーズは前回の抜歯とは違いスケーリングが多く次に充填の希望者が多かった。しかしながら、雨の為か 50 名ほど、例年の半分以下でした。患者さんの層が違うことを肌で感じました。大学内の掲示を見ると学生のテストの点数結果がすべて張り出されており、厳しい教育がなされていること、優秀学生は顔写真入りで垂れ幕に顔写真入りで玄関など目立



つとくに掲げてある、日本では考えられない習慣です。また学生さんの臨床実習はコーディネータに、症例ごとに決められた金額を払って指導医の下で治療を行うシステムようです。合理的というか日本とは違う一面を見せてもらいました。私たちもコーディネーターに献金して患者さんを回してもらわないと行けないのかな？と複雑な心境でした。患者総数 141 名でした。夕食は大変繁盛している T 先生お勧めのバイキングスタイルの焼肉としゃぶしゃぶ両方食べられる店での食事、皆満腹満足でホテルに帰りました。



8 月 15 日（月） 雨～晴れ。昨晚急遽 豪雨の為全市に渡って休校の報が伝わり、本日予定の栗田・稲垣両氏の講演が中止となり、また参加者の大学見学も中止になりました。現地での予定変更は今まで何度と洗礼を受けていますが、2 名の講演者には申し訳ない気持ちでした。急遽、旅行社との打ち合わせで市内観光とショッピングをお願いしました。MOA ショッピングセンターは埋め立て地を利用しているの広い一日でも有に遊べる日本にはないモールです。午後には、当初ボランティアを続けたナボタス地区（トンド）のスモーキー貧困区へ、大学の病院から仮設野戦病院の視察に参加者は開いた口が塞がらないといった状況でした。ゴミの中からお金になるものを探している昔の儘の環境に住む人たちを知る私には懐かしく思い出されてきました。何も改善されていない現状に歯がゆさ憤りを感じ、彼らに手を差し伸べたい思いがよぎりました。



8 月 16 日（火） ニュースによると悪天候、私たちの近いところで竜巻が発生していたこと、条件が悪く重なる中、活動が何とかできたこと、皆さんの采配があり団結できたのかなと思います。全員それぞれ物心ともに色々なお土産をもって無事大過なく帰国できました。今後活かしてもらえるものと確信します。帰国時はやっと太陽が顔を出し熱帯の暑さに豹変。今回の参加者は、特技を持った人、各種免許を約 150 以上持った人、独自の発想で人生に立ち向かっている人、重い文房具を集めて持ってきてくれた衛生士さんなど、一緒に行動、話が聞けて私自身色々なエキスをもらう機会となりました。新たな視点でフィリピンの今後の活動も含め、次の若手 Dr. の活躍を期待しています。交流の深まりは築き上げているようですが、場所の設定、比国の事務的厳しさは今後の活動に重しを載せますが異国の地での診療はそれぞれが持つ問題提起であり課題にもなります。大海の一滴は多くなれば小川から川になり流れます。“袖振り合うも多生の縁”の諺からも多くの人との機会を捉えて貢献できる活動を地道ではありますが進めたいと思います。ご支援、ご協力戴いた皆さんに心から敬意と感謝を伝えたいと思います。

